



# ありだし社協だより

今年度も引き続き、  
6年生児童代表の



「将来の夢」を発信してまいります。  
(次号以降、表紙に掲載予定)

次号は、  
箕島小学校から「夢」発信!

## 小中学生

6回目となった

「育てよう! 福祉の芽 小中学生作文コンクール」の優秀賞・芽ばえ賞を受賞した6人の子どもたちが朗読発表しました。

【来場者アンケートより】

「子供たちがしっかり考え発表する姿に感動しました。大人も真剣にならないと、と思いました。」

「どの子供たちも自分の周りの出来事を通して感じたり、調べたりしながら、福祉について考えています。関心を持つことが大切であると思いました。」

## 高校生

箕島高校情報経営科 3年生地域課題研究班の6

人が、時間をかけて、高齢者宅を訪問したり、各種団体のヒアリングをしたりして考えたことを『政策提言』としてまとめ、有田市長と副市長に訴えました。



【来場者アンケートより】

「高校生の素晴らしい行動に私たち高齢者も頑張ろうと思います。」  
「大人が無関心ではいけないと思いました。地域づくりは大人だけで進めるものではないと実感しました。」

# 共に創る

## 地域共創フォーラム 2018

～多世代で考える有田市の支え合いフォーラム～

## 大学生/老人クラブ

和歌山大学観光学部の7人の学生は、箕島の子どもたちにみかんジャムづくり教室をするなど地域で活動してきました。今回のフォーラムでは総合司会を担当しました。新堂地区と宮崎地区の老人クラブ会長も、パネルディスカッションに登壇し、高齢者としてできることを発表しました。

去る二月十七日(日)のことにあります  
が、有田市主催・有田市社協共催で「地域共創フォーラム2018」を開催しました。

有田市社協では、「子どもたちがつなぐ未来への希望 福祉の種まきプロジェクト」として2013年度から、子どもたちに対する福祉教育を実践してきました。子どもたちと福祉について学び、活動することで、その後ろにいる保護者世代にも地域について知ってもらいたいと考えたからです。子育てをしている年代の方とのつながりが薄いのは社協としての長年の課題でした。そして、子どもたちもつ発信力はきつと大人の心を動かすと信じてきました。

今回、介護保険制度のもとで支え合いフォーラムを開催するにあたり、地域共生や地域福祉推進のためには大人にも福祉教育の場が必要だと強く感じ、子どもたちの活動や発表の場を含めて企画しました。主催の有田市にも趣旨をご理解いただき、社協が関わってきた高校生、大学生と、社協主催の作文コンクール受賞者の小中学生にも登場してもらいました。また、新しく活動を始めた新堂老人クラブの報告と、生活課題が多いと言われている矢櫃地区の魅力宮崎地区老人クラブ会長から代弁してもらいました。

会場にいた大人は大多数が子どもたちの言葉や考え、行動に心動かされました。本当にどの子も素晴らしいかったです。

次は、私たち大人の番です。  
有田市をよりよい、誇れるまちにするために「共に」創っていきましょう。



# 2019年度事業計画・予算について

**重点目標** 1 福祉教育の充実 2 地域がつながる取組の推進 3 相談支援事業の充実・発展

**重点事業**

**1 子どもたちがつなぐ未来への希望 福祉の種まきプロジェクト**



2013年度から取り組みを始めた福祉の種まきプロジェクトは、実践方法の検討を重ねています。昨年度も子どもたちが地域と関わることで、地域で暮らす人の生き方を学び、役割を知ることができるようなプログラムを行ってきました。今年度も学校を拠点とした福祉教育の実践に地域の多様な方の参画を得る形を継続していきます。有田市で育つ子どもたちが、有田市のよさ・価値に気づき、ふるさとへの愛着を形成し、誇りあるまちとなるよう、地域・学校・家庭と協力して実践していきます。

**2 生活支援体制整備事業**

有田市から第2層生活支援コーディネーターを受託し、第1層協議体と共に、有田市に足りない資源を協議し、しくみづくりを行っています。第3層の生活支援コーディネーターとなる人材の育成も行っています。

また、本事業は社会福祉協議会の本来業務という認識をもち、分野・世代を超えた協働を視野に入れて活動します。

**3 AGALAを拠点とした住民主体の活動創出プロジェクト**

多世代共生の居場所「AGALA」の活用について、和歌山県社会福祉協議会のモデル指定を受け、住民主体の活動創出を目指します。

**4 支援ネットワークの強化事業**

一人暮らしを中心とする方の終末期を考えるプロジェクトを継続しつつ、昨年度経験した台風21号による災害時支援の課題について協議していきます。地域福祉ネットワーク会議を軸に、さまざまな団体とも課題共有を図り、災害時の支援体制や普段の備えなど、専門職の協働によりできることを検討してまいります。また、本会の地域福祉事業、介護保険事業のどちらの部門の職員にあっても、「地域福祉推進のための福祉教育」の視点を持ちニーズキャッチする機能の強化を図ります。このニーズキャッチから出されたことを基に、地域福祉という観点で他の事業所専門職が学ぶ機会をつくります。

**法人運営事業 46,500千円**

適正な法人運営や事業運営を行うとともに、各部門間の連絡、調整を行い、本会全体の適正な管理業務を行います。また、第2次地域福祉活動計画の実践も行います。

地域福祉の推進のため、「福祉教育の充実」に取り組んでいきます。地域住民が地域福祉を担っていくためには、住民自身が地域の様々な課題に気づき、その解決に向けて自ら取り組んでいく手法を学ぶ、気づきと学びのプロセスが必要です。そのことを通して、福祉課題に主体的に取り組む意識が醸成され、結果、地域の福祉力が培われます。子どもたちに対する福祉教育と共に、地域住民や専門職に対する福祉教育を実践していきます。

また、「相談支援事業の充実・発展」にも取り組みます。普段のつながりがあることで、住民同士も専門職も気軽に相談することができます。今あるネットワークの拡充と、専門職も事例を通して地域福祉について学ぶ姿勢を身につけ、スキルアップにつなげてまいります。

**生活支援体制整備事業 4,010千円**

有田市から第2層生活支援コーディネーターを受託し、第1層協議体と共に、有田市に足りない資源を協議し、しくみづくりを行っています。第3層の生活支援コーディネーターとなる人材の育成も行っています。

また、本事業は社会福祉協議会の本来業務という認識をもち、分野・世代を超えた協働を視野に入れて活動します。

**共同募金配分金事業 2,290千円**



ご協力いただいた共同募金は、県共同募金会を通じ、高齢者、障がい児者、子どもたちへの福祉活動のほか、ボランティア活動等、社会福祉事業の貴重な財源になっています。

有田市においては、小中学校への学校図書館の寄贈、保育所・幼稚園での人形劇の上演、高齢者福祉活動、ボランティア活動の推進等、地域の身近な活動に使用させていただいています。

有田市社会福祉協議会では、理事会（3月14日）、評議員会（3月28日）の議決を経て、2019年度事業計画・予算を決定しました。

**善意銀行・福祉基金事業**

3,300千円

「地域がつながる取組の推進」を行います。

誰もが自分らしく暮らせる福祉のまちづくりを進めるには、昔ながらの隣近所の助け合いに加えて、地域の中に自分の居場所があり、自分の地域に関心をもてるように、まずはさまざまな人が交流し、つながりをつくる「出会いの場」を地域の中に広げていくことが重要です。

そんな“人と人を結び”、“心と心を結び”、“人と地域を結び”取り組みを推進していきます。



**ボランティア活動事業**

528千円

ボランティアに関する相談窓口となり、ボランティアをはじめたい方に登録グループや活動の紹介を行います。また、一般の方から子どもまで、多くの方がボランティア活動に参加できるよう、ボランティア体験講座を開催します。

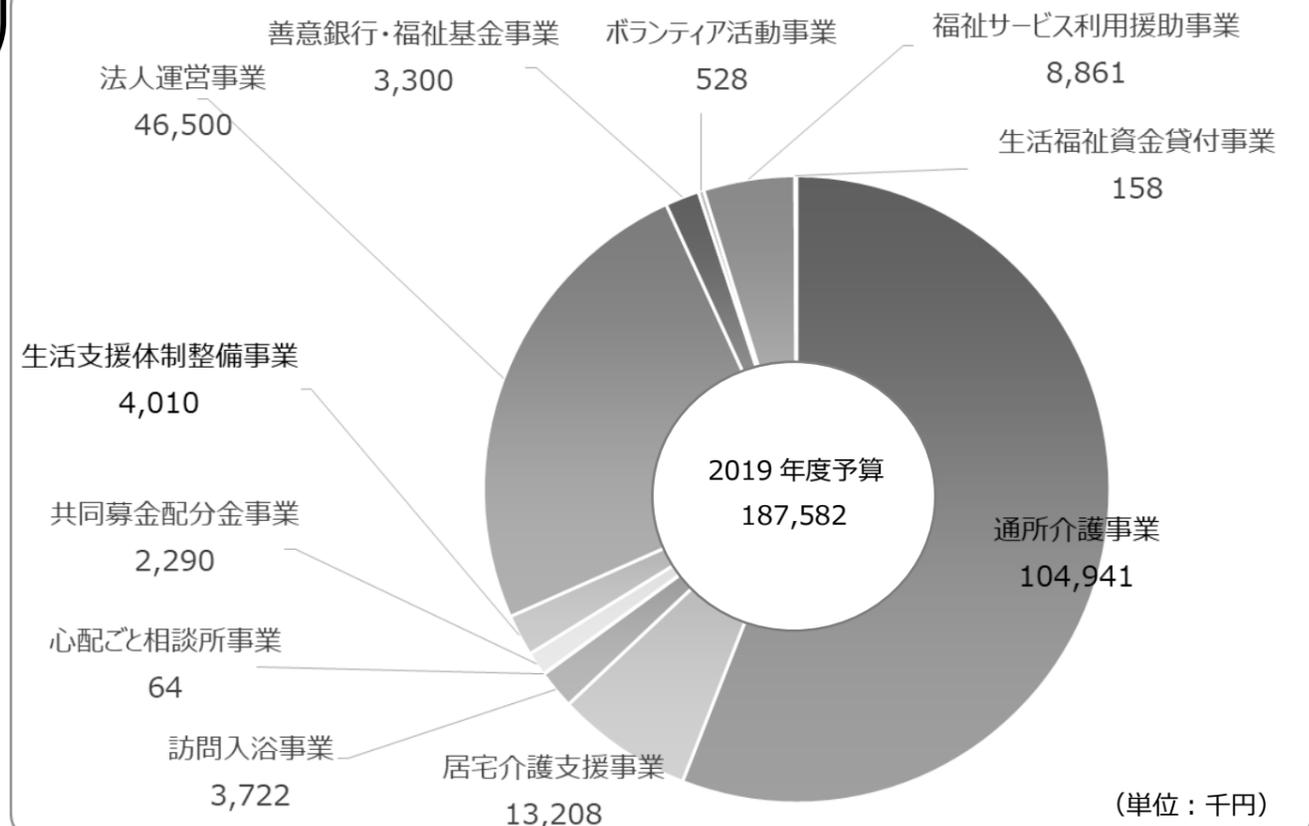
さらには、災害時に備え、災害ボランティアセンターの設置・運営訓練を行います。

**福祉サービス利用援助事業**

8,861千円

判断能力の不十分な高齢者や知的障がい者、精神障がい者に対して福祉サービスの利用に関する情報提供、助言、手続きの援助や金銭管理、重要書類の預かりなどを行います。

また、成年後見制度による法人後見事業を行います。家庭裁判所から選ばれる成年後見人等の役割を、本会が法人として担い、財産管理や身上監護を行います。



社協  
あまね

## 介護マメ知識

皆さんこんにちは。有田市社協のケアマネージャーです。新緑が爽やかな季節になりましたね。

### 今回のテーマ 地域に広がる認知症見守りの輪

前号の社協だよりでもご紹介したように、本会では認知症になっても安心して暮らせる有田市を目指し、市内で「**認知症サポーター養成講座**」を開催しています。

昨年度は小学生に加え、地域のお店の店員さんや箕島高校生のみなさんも受講されました。認知症の方や家族を見守る仲間が増え、こんなに心強いことはありません。

受講された方にはサポーターの証である**オレンジリング**をお渡ししていますが、お店や企業等には新たに、サポーターがいる事業所であることを示す**ステッカー**もお渡ししています。

認知症サポーター養成講座へのお問い合わせをお待ちしています。みんなで見守りの輪を広げていきましよう！

【88-2750 担当 木原・川口】



# まちの自慢マップをつくろう！ in 野



自分の暮らす地区に何があるのか、実は知っているようで知らないことがあります。野地区の皆さんにお集まりいただき、地図上に商店・たまり場・施設・体操の出来る場などを書き込んでもらいました。

出来上がった地図を見ると、こんなものが足りないという意見がたくさん！行政にお願いしなくてはいけないこともあります。子どもたちを「ええとこないわ」というまちで育てていていいですか？自分たちでできることはないか一緒に考えてみませんか？と投げかけ、「はい！」という力強い返事をもらいました。

有田市社会福祉協議会では、「生活支援コーディネーター」を配置し、住民と共に、地域で何が必要となっているのか、住民が力を合わせてできることは何なのかを考え、支えあい活動が進むようにサポートしています。

## 社会福祉協議会主催 グラウンドゴルフ大会のお知らせ

赤い羽根共同募金配分金事業として、グラウンドゴルフ大会を行います。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

日時 2019年5月28日(火) 午前8時30分より  
(雨天の場合は6月4日(火)に延期します。)

場所 ふるさとの川総合公園 多目的運動場

対象者 概ね60才以上の方  
申込み 事前申込不要です。  
当日お越しください。

＜お問い合わせ先＞  
有田市社会福祉協議会  
電話 88-2750



## お詫びと訂正

社協だより3月号に掲載しました「赤い羽根共同募金」の記事において誤りがありました。

ご関係者の皆さまには心よりお詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正いたします。

法人募金ご協力団体(敬称略)

(誤) 三菱電線株式会社



(正) 三菱電線工業株式会社